



のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル
 TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218
 E-mail center@f-npo.jp
 URL <http://www.f-npo.jp/>

人が人らしく生きられる地域に

清水修二・鈴木浩・齋藤実編著『地域力再生』（北土社、1480円）



日本社会の秩序や安定があらゆるところで揺らぎ、壊れつつあります。家族が分解し、医療が崩壊し、若者が希望をもちにくくなり、古典的な「貧乏」が急速に広がっています。こうした事態を打開するために何をすべきか。キーワードの一つが「地域力」です。

本書は、失われた地域力の再生を図るための方法と指針を、いろんな角度から分かりやすく論じた評論と

実践報告です。10年間にわたって多様な議論を重ね、何冊もの書籍の出版も手がけてきた「ふくしま地域づくりの会」の成果の上に、地元の第一線の研究者と実践家が「地域」を論じています。

第1篇は福島大学の7人の研究者による地域論各論で、コンパクトシティ、市民協働、環境政策、子育て支援、NPO、自治体行財政改革や議会改革の問題が凝縮して論じられています。第2編は5人の現・前町村長の実践的自治体論です。三春町の伊藤前町長、矢祭町の根本前町長、飯館村の菅野村長、西会津町の山口町長、そして会津坂下町の竹内町長が、それぞれの地域づくりの理念と手法を語っています。第3編はまちづくり実践レポートで、NPOなどの最前線で活躍している7人が執筆しています。第4編は「地域づくりの会」10年の総括であり、福島での地域運動の貴重な記録になっています。

福島ではつい昨年『あすの地域論』（八朔社）が出版されたばかりであり、立て続けに2冊の地域論の書物の発刊を見たのは、福島の地域研究と実践の厚みを示すものとして注目されていいでしょう。本書は理論と実践をあわせ備えた地域論テキストとして、幅広い読者層に歓迎されているいい内容になっています。

ふくしまNPOネットワークセンターは、上記「ふくしま地域づくりの会」を源流の1つとして誕生したいきさつがあります。本センターの目指すべき方向性をさぐる上でもお薦めの一件です。

（清水修二）





“パートナーシップ2008”報告

常務理事 齋藤 健

一度“のっぽの手”の中で“パートナーシップ2008”につきまして書かせて頂きましたが、今回は報告の形を取りまして、もう少し具体的な活動内容で皆様にお知らせを致したいと思えます。

“パートナーシップ2008”は東北労働金庫様と東北6県の中間支援NPO団体が協同致しまして一般の方（主に東北労働金庫様の会員、会社員の方）を対象にボランティア活動とはどんなものを体験してもらおうという主旨の取り組みです。

2007年度から3年計画で行っており、2008年度はその2年目に当たります（本年度も行う予定です。）東北地方の6県の中間支援NPO団体の中の7団体（宮城県は2団体で他の県は各1団体）が参加しています。東北地方の代表的な中間支援NPO団体が同じ目的を持って、情報を交換し、協力しながら活動を行う内容となっており、なかなか面白い取り組みであると思えます。

6月から8月にかけての間は仙台に各団体の担当者が集まりまして進め方を協議しまして、おおよそ9月初めからボランティア体験者の募集を行いまして12月末に終えるようなスケジュールとなっています。

結果、2007年度は東北6県で11名、2008年度は36名の体験者がありました。福島県内では2007年度は0名（実績なし）で、2008年度は2名（申込者は3名でした。）の実績でした。

2008年度の他所の県の実績は青森県3名、秋田県12名、岩手県6名、山形県6名、宮城県7名となっております。

初年度の取り組み方は各団体共に同じような方法でしたが、2年目（2008年度）は各県が夫々に工夫を凝らした内容となっています。特に青森県は受け入れNPO団体を回るバスツアーを実施しまして、ツアーへの参加者は結構、多数であったと聞いています。また、岩手県では担当者が受け入れ団体を全部回りまして、状況をしっかりと把握しながら実施しており感心を致しました。

福島県の場合には初年度は県北地域を中心に6団体、2年目は全県を対象にして8団体のNPO団体に受け入れの協力をお願いしました。

前にも“のっぽの手”の中で述べましたが、なかなか、申し込み者であっても体験者への道は容易ではないというのが担当した者としての感想です。

本年度（2009年度）も同じ主旨の元に“パートナーシップ2009”を行うよう準備中でございますので、興味をお持ちの方、また、そのような方を知っておいでの方は是非パンフレット等を手にして頂ければありがたいと存じます。

2008年度 受け入れ団体（敬称略）

ふくしまNPOネットワークセンター
りょうぜん里山がっこう
子育てさぼーとくらぶ
寺子屋方丈舎

チャチャチャ21
MMサポートセンター
ザ・ピープル
カルチャーネットワーク

第53回NPO研究会の報告

理事 北村 寧

標記研究会は、5月25日（月）18時30分より、ウィズもとまち3F・中会議室で行われました。私（北村）が「格差社会から市民社会の構築へーNPOの存在意義」と題して報告をしました。出席者は約10人でした。

現在、貧困問題が顕在化し、「格差社会化」が深刻になっていますが、格差社会から脱却する基本的方向を「市民社会の構築」に求め、「市民社会の構築」にとってNPOがもつ意義と役割を明らかにすること、これが報告のねらいです。

報告の柱は3つです。第1の柱「日本社会の現状と今後の方向」では、日本社会の現状を「一方における孤立化・分断化・格差社会化」と「他方における個人の自立・人間的連帯・市民社会化」との「せめぎあい」として捉え、「市民社会」を構築することが今後のめざすべき方向であると述べました。

第2の柱「市民社会とは何か」では、市民社会は多義的概念であるとしたうえで、スミス、マルクスの流れをくむ市民社会概念と、市民社会を国家・市場をコントロールするものとして捉える見解を紹介しつつ、日本国憲法が想定している社会、すなわち、「基本的人権が尊重され保障される社会」が市民社会であるとの私見を述べました。

第3の柱「市民社会の構築とNPO」では、「市民社会原理」を持つアソシエーション（組織体）として「非営利・協同組織」である協同組合やNPOが重要であり、多数のNPOがそれぞれの持ち味を生かして自由に活動する社会の形成は「基本的人権が尊重され保障される社会」としての市民社会の構築にとって不可欠であると指摘しました。

報告後の質疑で、「インターネットを抜きにして現在の市民社会は語れないのではないか」等の貴重なご意見をいただきましたが、大学の講義ふうの報告はNPOの実践家の皆さんには抽象的・観念的でわかりにくかったと思います。「現実と切り結ぶ」研究をしなければと思いを新たにしました次第です。

腹を立てるより、空しくなる話

ふくしま情報ステーション所長 齋藤 美佐

「ああ、やられたあ〜」

ふくしま情報ステーションに、スタッフの嘆きの声がきょうも響きわたります。閲覧用に定期購読している情報誌や保存版の貴重なパンフレットが度々持ち去られてしまうのです。保存版パンフレットはクリアケースに入れ「閲覧用」「持出厳禁」と黄色いテープで目立つように貼付してあっても、盗人には関係なく持ち去られ事件は続きます。

最近福島市でも、環境保護のためにスーパーなどではレジ袋を有料化しましたが、マイバックが万引き袋となりスーパーでは大変苦労していると聞きます。ほかにもモラルのない話として、ペットの美容室には毎月お金をかけているのに子どもの給食費を滞納し続ける人、街や文化的建造物に派手な落書きする人、図書館の本の頁を破いて持ち去る人など・・・いったい日本人のモラルや道徳はどこへ行ってしまったのでしょうか。

「モラル」や「道徳」の崩壊が進むなか、監視カメラの設置や開発に時間とお金をかけながら、自分を正当化ばかりする大人をつくってしまっていては、ほんとうに日本はおしまいです。これはもう心の監視カメラが発明されない限り、解決は困難なままでしょう。

きょうも呆れながら、解決策としてスタッフの目つきが悪くなくても監視能力を徹底的に強化するか、盗難監視用にカーブミラーを購入するか、上半期の予算書とにらめっこしながら、空しい思いの雨の屋下がりなのでした。



福島市市民活動サポートセンターから

ふくサポの利用者を増やそう！との意気込みで4月よりNPOネットワークセンターで働いている渡邊です。

利用者を増やすには、①目的を叶えられる場所であること、②便利な場所にあること、③価値があること、④良いサービスを提供できるところであること、⑤環境が良いところであること等々が考えられる要因である。

これらはすべて利用者すなわち受益者から見たものであって判断も利用者に委ねられる。ここでふくサポがアピールできるところを論えると、①印刷料金が安い、②駅から近い、③印刷の質が良い、④接客態度が良い、⑤ゆっくりできる等々である。

このことを踏まえ“利用者を増やす”には“PR”が必要との感がより大きくなっている。現に6月より福島市内で活動をされている団体さんのところへ訪問し、活動状況取材している。取材したことを「ふくサポ通信」に掲載することで多くの市民の方々に知って頂く。この活動を通じてつながりの輪を広げて行くのが狙いで取り組んでいます。

次にふくサポ内のレイアウト変更、これは利用者側に立ってふくサポを見るという観点で取り組んでいます。より良い環境づくりを目指し自分たちにできることから改善しております。機器類を使いやすくするために場所を広げ使い勝手が良いようにする。重複しても（印刷機と紙折り機またコピー機）不自由の無いスペース等々、より良い環境を提供できるよう努力しております。

〒960-8044

福島市早稲町4-16 ラヴィバレー番丁3階

電話 024-526-4533

ファックス 024-526-4560



「のっぽの手」では誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げております。当センターへのご意見、日頃の活動に関する事、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局 <http://www.f-npo.jp/>

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1

TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218

E-mail:center@f-npo.jp

福島市市民活動サポートセンター <http://www.f-ssc.jp>

ふくしま情報ステーション <http://www.machi-fukushima.jp/>

